

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市子ども夢パーク	評価対象年度	令和5年度
事業者名	・事業者名 川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ・代表者名 公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長 石井 宏之 川崎市中区今井南町28-41 ・構成員名 特定非営利活動法人 フリースペースたまりば 理事長 西野 博之 川崎市中区新城2-4-1セシーズイシイ2 401号 室	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数:72,052人 (令和4年度:68,309人)	②年間延べ利用団体数:896団体 (令和4年度:990団体)
収支実績	1 収入 単位:円 指定管理料 80,547,000 雑収入 0 補償金 0 合 計 80,547,000 2 支出 人件費・賃金 55,882,366 光熱水費 3,626,644 委託費 10,321,844 消耗品費 1,889,743 修繕費 283,878 その他経費 8,337,998 合 計 80,342,473 3 差引 204,527	
サービス向上の取組	「川崎市子どもの権利に関する条例」の理念に基づいた事業執行のため、行政機関や地域団体等との連携を図るとともに、子どもと話し合いながら、利用者ニーズを事業運営に反映させるなどサービス向上に取り組んだ。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	条例の理念の実現	川崎市子どもの権利に関する条例の理念(子どもの参加の促進、子どもの居場所の確保等)の実現が図られているか。	5	5	5
	(評価の理由) 事業推進については、「冒険遊び場(プレーパーク)事業」において、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくらず、子どもが自分で決めて実行するプロセスを大事に遊びの支援を行った。また、「不登校児童生徒の居場所事業」において、いつでも、どこでも、誰でも学べるという生涯学習の視点に立ち、誰もが安心して過ごせる不登校児童生徒の居場所「フリースペース えん」を運営した。また、20周年を記念したイベント「夢ぱおたんじょう日まつり」や「こどもゆめ横丁」などの大規模イベントや、地域と連携しながらの新春行事などを創意工夫しながら行った。 事業成果については、コロナ禍において減少した利用者数が引き続き増加し、前指定管理時平均(81,123人)の89%程度にまで回復した。条例の理念実現に向け、市と協働の下、川崎アゼリアに夢パークや子どもの権利について掲示して啓発を行った。 また、「こどもの権利の日事業」では、権利の日のつどい会場での出張夢パーク事業の実施や、子どもの権利に関する講演会の実施などを行い啓発に取り組んだ。 子どもの「やりたい」を保証するために、子どもとスタッフで打合せを重ねた。特にスタジオに登録する子どもで構成する運営委員会である「サタデーナイトスタジオ」においてライブイベント実施に向け検討を行い、ライブイベント「KUJIROCK」を年3回実施し、計148名が参加した。フリースペースえんでは、えんラインを活用して在宅でもミーティングに参加できるようにするなどの取組や、子どもが主体となったフェスティバルの実施等を通してこどもの参加促進を行った。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) 適正な人員配置については、利用人員、事業の目的等を考慮した適正な職員を採用、配置した。メディアを通じて夢パークを知った新規利用者の増加や様々な対応が必要な子どもの増加に対応できる職員体制・配置について市と検討を進め、新規職員の採用等を行った。また、労務管理システムの導入や定期的な面談の実施、管理職研修の受講等の働きやすい環境づくりに取り組んだ。 職員の研修体制については、昨年度と同程度の規模で実施をしたほか、外部研修やオンラインでの研修への参加も積極的に行った。また、昨年度に引き続き、夢パークの理念に関する研修を継続的に行うことで、スタッフ内での意識の共有や子どもの居場所の必要性や子どもが参画することの意味などを深く考える機会とした。 個人情報等の取扱については、個人情報保護方針、個人情報保護責任者が整備されており、個人情報漏洩等のトラブルはなかった。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	5	5
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	4	8
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) 施設・事業・イベントの広報については、新聞、ラジオ、テレビ、地域情報誌等メディアへの取材を働きかけ、申し入れのあったメディアの取材は受け入れ夢パークの理念や活動の様子等を積極的に発信した。 NHK『ドキュメント72時間「どろんこパーク」雨を走る子どもたち』が再放送される等のメディアの影響や、こども家庭庁視察受け入れ等の影響もあり実習の受け入れや視察希望が増えたため、定期的に施設見学日を設ける等の工夫を行いながら、個人、子育て団体、地方議会議員等1,305名の視察・実習に対応した。また、SNSでの発信を強化しInstagramは5,000人を超えるフォロワーを集め、SNSを通じて来場する人も増加した。 利用者への対応については、新任スタッフに対し「受付・窓口・電話対応」研修を実施する等し、利用者からの要望に適切に対応した。また、えんの利用者の保護者や不登校に悩む保護者向けの講座・グループ相談会も参加する等、利用者及び保護者に寄り添った対応を行った。 学校及び行政機関との連携については、学校への出欠報告等緊密に連携した。また市内児童相談所や福祉事務所からの相談を受け、えんの登録につながったケースもあった。 利用者ニーズの把握については、利用者懇談会の開催、利用者アンケートの実施、「みんなの声」掲示板等の従来の取組に加え、利用者の相談窓口を開設し園内で広報を行う等、より一層利用者のニーズを把握できる環境づくりを行った。日常の聞き取りも継続的にを行い、ゆるり(乳幼児の部屋)の改修等に反映した。さらに大学のボランティアサークルと連携し子どもたちへの学習支援も継続して実施した。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
(評価の理由) 施設・設備の保守管理については、必要な補修工事を適切に行うとともに、修繕計画を作成し計画的に修繕を行った。今年度は、遊具の修繕や木道の整備等を行った。夜間の安全対策として人感センサー付きのライトを設置する等、限られた予算の中で工夫して対応した。 利用者の安全確保については、スタッフが相互に連携し、チェックシートを用いて毎日2回、事故が発生しやすい場所を中心に遊び場全体の点検を行い、事故防止の徹底を図った。救命救急研修を4月に実施し、スタッフ20名が参加した。夢パークに入場する際には来場票を記入することとし、アルコールの設置などの感染防止対策は継続して行った。 防犯対策については、防犯マニュアルを備えるとともに、防災・避難訓練(防災設備の確認、火災や地震時の誘導・初期消火・通報などの確認、消火器を使った使用法の確認等)を実施した。避難訓練には来園者にも参加をしてもらうことで、より実際の状況に即した訓練を実施した。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	5	3	3
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) 適切な金銭管理・会計手続については、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理した。 効率的・効果的な支出については、計画に基づいた適切な収入・支出がなされた。					

注) 配点×(評価段階÷5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	72	評価ランク	B
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
 C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
 E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

子どもの権利条例の理念の実現のため、子どもの参加の促進や子どもの居場所の確保等について継続的に取組を行っている。子どもや市民ボランティアとともに話し合う場を通して、様々な意見を引き出し、イベントの実施に際して実際の事業の企画・運営にも子どもを巻き込み、市民ボランティアにも協力をいただきながら実施するなど、様々な創意工夫を行いながら事業を実施している。利用者のニーズにも迅速かつ柔軟に対応しながら、子どもの自由な遊び場や子どもの居場所の安定的な確保に向けた役割を十分に果たしている。このような取組がメディアを通して広く周知され、子どもの居場所のモデルとして他自治体や子育て団体から多くの視察を受け入れられるなど重要な役割を担っていることは高く評価できる。今後は、高いスキルを持ったスタッフが安定して働けるよう風通しのいい職場づくりや人材育成に引き続き取り組んでいく必要がある。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

居場所づくりという今後さらに重要な役割を担うことが求められていることを踏まえ、引き続き利用者のニーズを的確に捉えながら運営を行うこと。
